

大学研究力強化に向けた取組 ～多様な研究大学群の形成に向けて～

- 1. 多様な研究大学群の形成に向けて**
- 2. 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定**
- 3. 総合振興パッケージの拡充に向けた取組**
 - ① 地域中核・特色ある研究大学の振興**
 - ② 大学(領域)を超えた連携の拡大・促進**
 - ③ 魅力ある拠点形成等による大学の特色化**

(参考) 関連施策の状況について

- ① 研究大学強化促進事業の事後評価**
- ② 創発的研究支援事業における研究環境改善支援**
- ③ 令和4年度における主な事業の採択状況**

第66回総合科学技術・イノベーション会議における岸田総理発言



令和5年2月8日

本日は、今後の科学技術・イノベーション政策の大きな方向性を議論いたしました。また、**多様な大学の機能強化を支援する地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定**、(略)などに関する報告を頂きました。

本日の議論を踏まえ、検討の方向性を3点申し上げます。

1つ目は、先端科学技術に関する国家間競争への対応です。(略)

2つ目は、**知の基盤の強化と人材育成**です。世界と伍する**国際卓越研究大学**に加え、地域の知の基盤となる**地域中核・特色ある研究大学**を創出するべく、自らの強みや特色、ミッションに応じた戦略を描く研究大学への支援をこの春から開始いたします。

あわせて、**女性や若手研究者の更なる活躍**、**文理分断からの脱却**などを支援するとともに、日本でのG7開催も機会とし、価値観を共有する同志国との協力や**国際頭脳循環の形成**を進めます。

3つ目は、公的研究機関や資金配分機関の機能強化です。(略)

この3点を中心に、本年6月をめどとし、今後の政策の羅針盤となる『統合イノベーション戦略2023』を策定いたします。高市大臣のもと、政府一丸となって、戦略の具体化を進めてください。

科学技術・学術審議会 大学研究力強化委員会について

1. 設置趣旨

科学技術イノベーションの源泉となる大学等の研究力強化を図るため、大学等における科学技術に関する研究開発に関する重要事項について、幅広い観点から調査検討を行う。※令和3年10月13日、[科学技術・学術審議会に「大学研究力強化委員会」を設置](#)。

(参考)「第6期科学技術・イノベーション基本計画」(令和3年3月26日閣議決定)

○大学の研究力強化を図るため、2021年度から、文部科学省における組織・体制の見直し・強化を進め、第6期基本計画期間中を通じて、[国公立大学の研究人材、資金、環境等に係る施策を戦略的かつ総合的に推進](#)する。

2. 委員一覧

相原道子	横浜市立大学長	林隆之	政策研究大学院大学教授
伊藤公平	慶應義塾長	福間剛士	金沢大学ナノ生命科学研究所所長・教授
受田浩之	高知大学理事・副学長	藤井輝夫	東京大学総長
◎大野英男	東北大学総長	柳原直人	富士フイルム株式会社取締役常務執行役員、 バイオサイエンス&エンジニアリング研究所長、 知的財産本部管掌
○梶原ゆみ子	富士通株式会社執行役員、EVP、CSO	山本佳世子	株式会社日刊工業新聞社論説委員兼編集委員
片田江舞子	株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ代表取締役	山本進一	豊橋技術科学大学理事・副学長
小長谷有紀	独立行政法人日本学術振興会監事	吉田和弘	国立大学法人東海国立大学機構大学総括理事 岐阜大学長
小林弘祐	学校法人北里研究所理事長		
新福洋子	広島大学副学長(国際広報担当)、 大学院医系科学研究科国際保健看護学教授		
高橋真木子	金沢工業大学大学院 イノベーションマネジメント研究科教授		

◎：主査、○：主査代理

(50音順、敬称略)

3. 開催状況

- 令和3年12月1日、第1回会議を開催。冒頭、田中前文部科学副大臣から、「『[多様な研究大学群の形成](#)』に向けて、大学の強みや特色を伸ばし、研究力や地域の中核としての機能を強化する上で必要な取組や支援策など、幅広い観点から議論を行っていただきたい」と挨拶。会議は原則公開で実施し、文部科学省の公式チャンネルでライブ配信。
- 令和4年1月17日に第2回、2月7日に第3回、5月30日に第4回、6月30日に第5回、7月14日に第6回、8月3日に第7回、8月31日に第8回、11月2日に第9回会議を開催。
- 会議では、委員から大学の研究力向上に向けた本質的な課題に関する問題提起や大学を中核とした好循環を生み出すための具体的な好事例の紹介など、活発に議論。



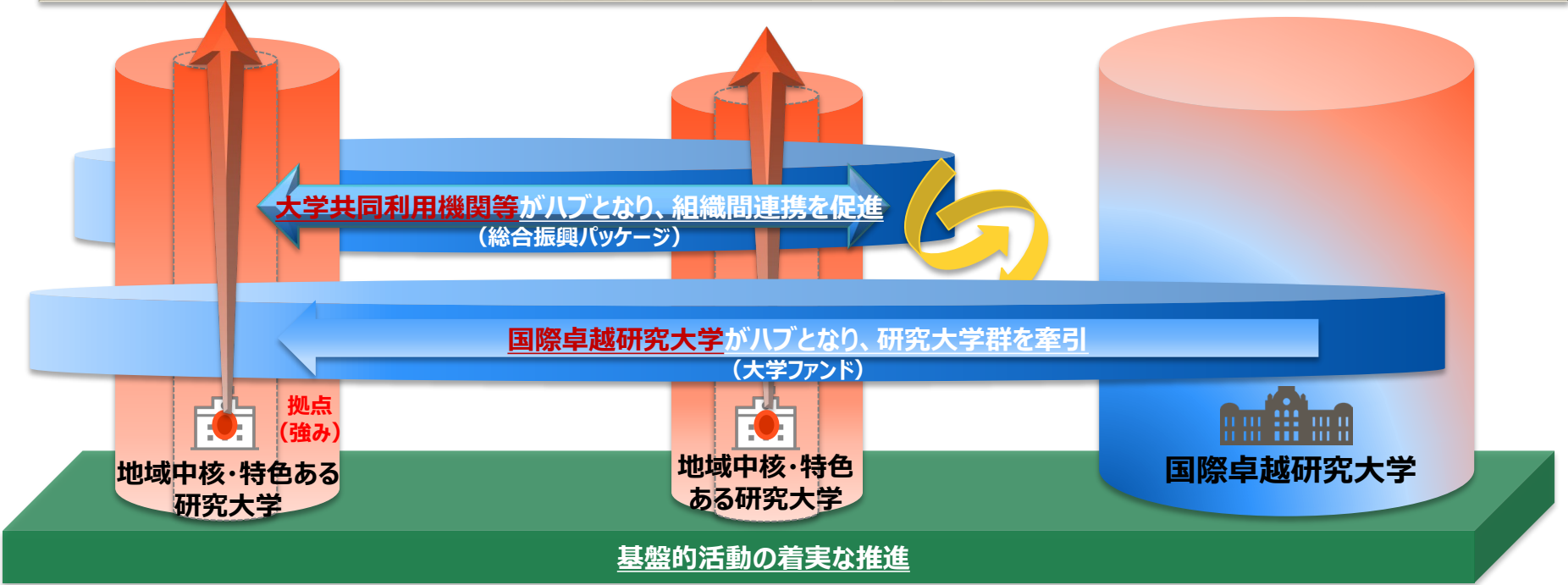
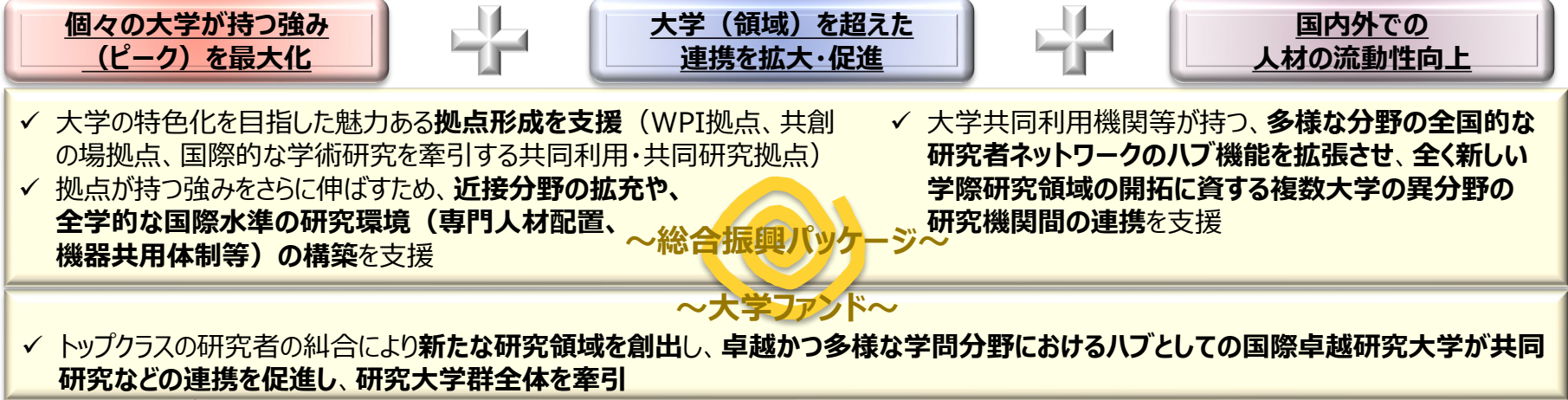
【参考】第1回会議の様子

日本全体の研究力発展を牽引する研究大学群の形成

(研究大学に対する組織支援策※の全体像)

※ 博士人材や研究者個人・チームに対する支援策は別途あり

□ 日本全体の大学の国際競争力を高めるには、総合振興パッケージと大学ファンドとを連動させ、個々の大学の持つ強みを引き上げると同時に、複数組織（領域）間の連携を促進し、人材の流動性が高いダイナミクスのある研究大学群（システム）を構築することが必要



第10回 大学研究力強化委員会(2/6)

2月6日、第11期科学技術・学術審議会(～2月14日)の最終回となる、科学技術・学術審議会 大学研究力強化委員会を開催しました。

井出副大臣は、冒頭の挨拶において、令和3年10月に設置されて以来、10回にわたって御尽力いただいた委員の皆様へ感謝の意を述べた上で、**多様な研究大学群の形成**や、**研究者が自由に研究できる環境の整備**に文部科学省として取り組んでいきたいと述べました。

本委員会では、大学の研究力強化に向けた取組として、昨年末に公募を開始した**国際卓越研究大学の制度設計**や、**地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定**に係る検討を重ねており、今回も幅広い観点から活発な議論が行われました。

文部科学省では、本委員会での議論も踏まえ、日本全体の研究力を牽引する研究大学群の形成に向けて、必要な施策を着実に進めていくとともに、各大学がそれぞれの**ビジョンの下、適切な研究マネジメント体制を構築し、研究環境を持続的に向上できるように、必要な仕組みなども検討**してまいります。

<配布資料>

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu32/siryu/000017833_00009.htm

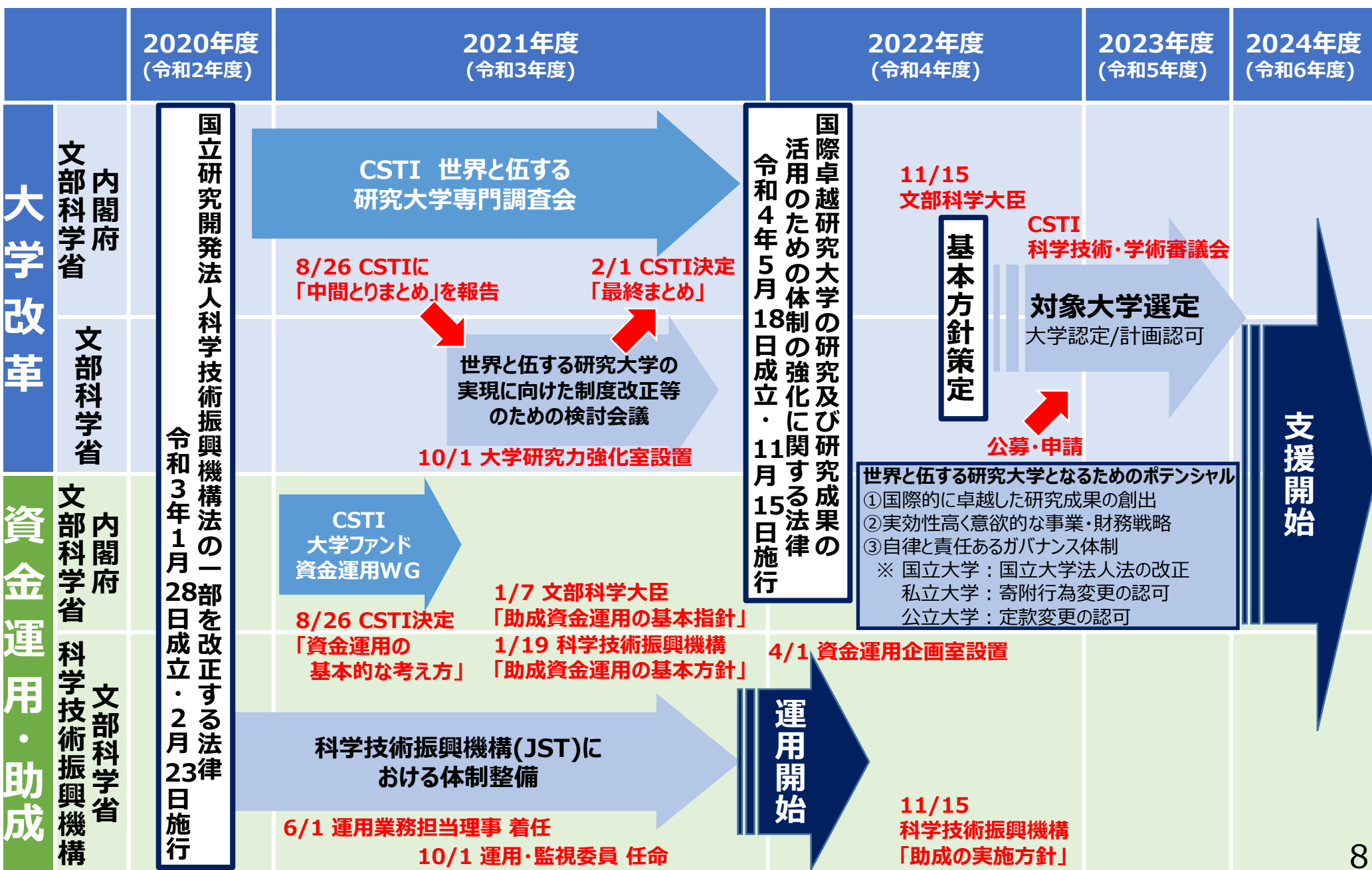
<Youtube傍聴用URL>

<https://youtu.be/LzCwQrVolbA>



(出典) 文部科学省HP「今日の出来事」

大学ファンドに関するスケジュール



国際卓越研究大学の公募・選定について

1. 公募・選定のポイント

判断

これまでの実績や蓄積のみで判断するのではなく、世界最高水準の研究大学の実現に向けた「**変革**」への意思(ビジョン)と**コミットメントの提示**に基づき実施。

大学数

制度の趣旨を踏まえ、認定及び認可される大学は無制限に拡大するものではなく、**数校程度に限定**。また、**大学ファンドの運用状況等を勘案し、段階的に認定及び認可を行う**。

要件

制度の趣旨や大学の負担も考慮し、大学認定と計画認可の審査プロセスを一体的に実施。

1. **国際的に卓越した研究成果を創出できる研究力**

2. **実効性高く、意欲的な事業・財務戦略**

3. **自律と責任のあるガバナンス体制**

審査体制

総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会が適切に情報共有等の連携を行うことができる体制を構築。アカデミアの特性も踏まえつつ、**国際的な視野から、高度かつ専門的な見識を踏まえらるよう、外国人有識者も加えた適切な体制を構築**。

段階的審査

審査においては、**研究現場の状況把握や大学側との丁寧な対話を実施**（書面や面接による審査だけでなく、**現地視察、ハンズオンによる体制強化計画の磨き上げなど多様な手段により審査を実施**）。



2. 公募・選定のスケジュール

- ◆ 令和4年12月 公募開始
- ◆ 令和5年3月末 公募締切（意向表明書／体制強化計画(第一次案)提出）
- ◆ 令和5年度～ 段階的審査（春～秋頃にかけて段階的に絞り込み。大学側との丁寧な対話。）
国際卓越研究大学 認定 / 体制強化計画 認可
助成開始（令和6年度予定） ※第2期公募開始（大学ファンドの運用状況等を勘案し、段階的に行う）



(参考) 大学ファンドに関するシンポジウム①

名 称：大学ファンドを通じた世界最高水準の研究大学の実現に向けて
～国際卓越研究大学構想への期待～

【主 催】国立研究開発法人科学技術振興機構

【共 催】内閣府、文部科学省

趣 旨：国際卓越研究大学構想の意義や背景等に関する講演に加え、
パネルディスカッションを実施。

公募開始を前に、大学関係者だけでなく、社会に広く周知し、対話
するシンポジウムを開催することで幅広い産学官の関係者の理解と
関連施策との連携を促進することを目的とする。

日 時：令和4年11月29日(火)14時～16時（実開催・オンライン配信）

【資 料】<https://www.jst.go.jp/all/event/2022/20221026.html>

【動 画】https://www.youtube.com/watch?v=Ke_k-dGFT90



<当日のスケジュール>

14:00 開 会

講 演

①上山 内閣府CSTI常勤議員

②木村 文部科学省大臣官房審議官

パネルディスカッション

16:00 閉 会

<パネルディスカッション参加者>



上山 隆大
内閣府 総合科学技術・
イノベーション会議 常勤議員



金丸 恭文
フューチャー株式会社
代表取締役会長兼社長
グループCEO



山崎 光悦
復興庁参与・
福島国際研究教育機構
理事長予定者



川合 眞紀
大学共同利用機関法人
自然科学研究機構 機構長

10兆円大学ファンドの目指すもの

- 現在の研究レベルの高い「大学」を選定するものではない。
 - 異次元の優れた研究環境を作り出すことができるかが判断基準
- 異なる研究者支援のための投資
 - 千人単位の追加的研究支援者、専門的職員の必要
- 異なるアドミニの構造を作り出すための投資
 - CFO、大学財務の構造、事務職員（英語能力）
- 異なる大学院と学部との関係を作り出すための投資
- 異なる部局体制を作るための投資
- 異なるガバナンス構造（真の大学自治）を作るための投資
 - 大学のガバナンスを文科省から自らのオートノミーへ
- 異なる国際性を確立するための投資
 - 異空間のキャンパス、教授も大学院生も三分の一以上外国人

(参考) 大学ファンドに関するシンポジウム②

政府は世界トップの研究水準を目指す大学を支援するため、10兆円規模の大学ファンド（基金）を創設した。意見交換を通じこの取り組みへの理解を深めようと、シンポジウム「大学ファンドを通じた世界最高水準の研究大学の実現に向けて」が昨年11月29日、科学技術振興機構（JST）主催、内閣府と文部科学省の共催で開かれた。都内の会場とオンラインを合わせ1000人ほどが参加し、関心の高さをうかがわせた。

振興パッケージで「トップ以外の大学も支援」

ファンドはJSTが昨年3月に運用を開始した。運用益により、世界トップの研究水準実現の潜在力を持つ数校の「国際卓越研究大学」に年最大計3000億円を助成。全国の博士課程の学生を支援し、日本の研究力強化を図る。2024年度の助成開始に向け、卓越大学の公募が今年度末までの予定で始まっている。

「優れた研究を現在している大学を選ぼうというのではなく、新しいカテゴリーに入っていこうとする大学を支援したい」「選ばれるトップ数校以外は見捨てられるのではとの批判もあるが、10兆円ファンド以外にもさまざまな支援が走っている」

こうした発言でシンポジウムの口火を切ったのは、ファンド創設の議論に深くかかわってきた内閣府総合科学技術・イノベーション会議常勤議員の上山隆大氏。創設が明らかになって以降、学術、教育界などから期待と共に、さまざまな疑問の声も起こっている。これらへの回答を交える形でファンドの狙いを語った。「このファンドは年3000億円（の運用益）でトップ大学を支援する形ではあるが、『地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ』と連動した施策だ。文科省と内閣府はトップ層以外への支援も真剣に議論してきた」と説明した。

2004年の国立大学法人化以降、運営費交付金の減少は年約1600億円に及んでいる。こうした中、地域の中核大学や特定分野に強い大学を強化しようと、政府は振興パッケージを打ち出した。今年度第2次補正予算に盛り込まれたほか、来年度概算要求でコア予算658億円、他の関連予算と合わせ1700億円規模となっている。上山氏は「大学ファンドが大きな注目を浴びているが、振興パッケージとほぼ一体だ」と強調し理解を求めた。成長分野をけん引する大学や高等専門学校の機能強化に向けた基金も紹介した。

上山氏の講演のキーワードとなったのが「新しいカテゴリーの大学」という言葉だ。従来とは全く異なるカテゴリーで大学を考える大学を支援するのが、文科省と内閣府の共通認識だという。その中身は何か。

上山氏は日本の大学の現状や課題を、次のように概説した。

- (1) トップの大学でも海外トップ層と成果創出などの格差が極めて大きく、新たな支援が必要。
- (2) 研究者の支援が貧弱。
- (3) 海外トップ層は大学院中心の組織体で、学部縦割りにされている国内の大学院は張り合えない。
- (4) 海外トップ層では財務のプロがアドミニストレーション（経営管理）にあたっている。
- (5) 真の大学の自治は執行部が自ら考え、財務構造を分析し自力で勝ち取る必要がある。
- (6) 国際性を高めるため、海外の大学と競争して有能な研究者やスタッフを招く必要がある。

新しいカテゴリーの大学はこれらを踏まえたもので、「これまでの運営費交付金や競争的資金の枠組みではできず、このファンドでしかあり得ない」と、創設に踏み切ったという。「現在、卓越していると思われる大学でも、これに参加しようと思わなければ（ファンドとしては）共に歩む必要はない」と念を押した。



世界トップ水準の大学をどう実現するか。激論が繰り広げられた = 昨年11月29日、東京都千代田区の丸ビルホール

(参考) 大学ファンドに関するシンポジウム③

「政府の成長戦略の重要政策」と強調

続いて文科省大臣官房審議官の木村直人氏がファンド創設の経緯や仕組み、振興パッケージを解説した。岸田文雄首相は2021年10月の臨時国会の所信表明演説で、成長戦略の第一の柱が科学技術立国の実現だとした上で、ファンド創設を言明している。このことに触れ「政府の成長戦略の中の重要政策だ」と強調した。

木村氏は日本のトップ論文数順位の低下、博士号取得者数の伸び悩みといった厳しい現状を指摘。「相対的な研究力低下の一因として、諸外国の大学のファンドの充実がある」とした。米ハーバード大学、スタンフォード大学などが運用益を活用し、研究基盤や研究者支援を充実させているという。今回のファンドはこれらをモデルにしたと説明。データを示しながら必要性を説き「わが国全体の研究力強化に努めたい」とした。

続くパネルディスカッションの冒頭、進行役の上山氏から「全くのアドリブで」と突然、指名され登壇したのは内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長の松尾泰樹氏。「日本経済を大きくし雇用を増やし、賃金を上げなければ。そのためには高度な人材をしっかりと育て、外国人をきちんと受け入れ、スタートアップ（新興企業）を生んでいく必要がある。新しい産業構造を生むプラットフォームが卓越大学であり、スタートアップの支援だ。ここが本当に正念場。地域の中核大学もしっかり支援する。岸田政権は『誰一人取り残さない』としており、頑張っている大学は絶対取り残さないとの思いだ」と語った。

『時間を買った』ファンド契機に変革を」

パネルではファンドへの思いや大学を取り巻く状況の認識、改革への思いが活発に語られた。

「当初はこのファンドに懐疑的だった」と明かしたのは、大学や教育改革などに関する政府委員会の経験が豊富な、フューチャー会長兼社長の金丸恭文氏。金丸氏は「税金で10兆円のファンドを作り、運用益を大学に提供するのは『上げ底』だと思った。というのも、世界のキャッシュリッチなトップの大学は、基本的にはその若い研究者や卒業生の仲間がリスクを取って起業し、そこに大学ファンドみたいなものが投資してコラボレーションをし、結果的にキャッシュリッチになっている」と解説した。海外のこうした大学は、あくまで内発的なエネルギーで発展してきたというのだ。

金丸氏は続けて、現在の認識を語った。「今から大学がベンチャーを輩出してリターンで基金を積み上げていくには、相当に時間がかかる。だから私は、今回のファンドは『時間を買った』と思っている。これがきっかけになり、大学の中で変革が起きることが重要。今までの延長線上の微修正でファンドが使われてはいけない。その大学がトップレベルの研究者、企業家をどれだけ輩出するかが大切だ」

自然科学研究機構長の川合眞紀氏は「大学に期待値があるわりに、国はこれまでシケたお金しか出してこなかった。しかし今回、かなり思い切った施策を国が考えた」とファンドを評価した。日本の大学に欠けるものとして、フレキシビリティ（柔軟性）を挙げた。例えば「大学には、優れた人材を輩出する役割があり、学生の視点で考えると、自ら学び、生き方を開拓する力を持つことだ。しかしこの国の教育では一本道を進むことがデフォルトになり、途中で迷いが生じた学生は大変で、フレキシビリティがない」と提起した。

川合氏は運営費交付金の制約にも触れた。「例えば、大学は入学定員が管理されていて、サボって駄目な学生がいなくなっても運営費交付金が減ってしまう。大学ファンドでは、今までの適正でない縛りを外す提案をしてほしいといわれている。全部外すと何ができるか、期待している」



(左) 木村氏 (右) 松尾氏



(左) 金丸氏 (右) 川合氏

(参考) 大学ファンドに関するシンポジウム④

「私の大学はこうなる」思いの一致が肝心

4月に設立される福島国際研究教育機構の理事長に就任する山崎光悦氏は、自身が学長を務めた金沢大学が2017年度に文科省「世界トップレベル研究拠点プログラム」(WPI)に採択され、研究所の新設などに取り組んだ経験を紹介した。「世界トップレベルの研究をしっかりとやっていくという、研究者の大切なモチベーションになった」と効果を強調した。

山崎氏は卓越大学の課題として「現在の大学組織を置いたまま、ガバナンスをどう変えていくのかは一番、大事なポイント。“特区”を作るのか、あるいは今いる人たちも含め全体で変わろうとするのか。私の大学はこうなるぞと皆の思いが一致し、どのくらいのスピード感でやれるかが一番肝心だ」と投げかけた。

このほか国内の大学の連携、入学試験の評価のあり方、基礎研究の重要性、博士号取得者の活用、海外出身研究者の定着など、多岐にわたり意見交換が行われた。

閉会挨拶に立ったJST理事長の橋本和仁氏は「実は私も計画の最初から関わっていた」とし、3点をアピールした。

- (1) 研究力とは何か。例えばトップ論文数を増やすなら、一番分かりやすいのは科研費(科学研究費助成事業)に(運用益を)全部、注ぎ込むことだ。毎年3000億円が入れば科研費は倍になり、確実に論文数は上がると思う。しかし世界の変革の中で、論文数を上げるだけではダメだろう。いろいろな議論の中で大学ファンドを作った。
- (2) 卓越大学に指定された大学が自分だけではなく、他大学と連携して日本全体の研究力を上げることを期待する。
- (3) 指定大学に対するリクワイアメント(要求)は極めて厳しいものになる。

効果波及し、社会の活力高めていくか注目

何かにつけて元気がないといわれる、昨今の日本社会。大学の研究力低下も、指摘されて久しい。シンポジウムでは、ファンド創設の当事者が不安や疑問の声にも向き合い、丁寧に説明する姿勢が感じられた。このファンドは一部の大学やその研究者に利するだけでなく、効果を広く波及させる狙いがあることが伝わった。

その志の通り、大学が元気になることで日本が学術、産業の競争力を高め、人々の知的好奇心を紡ぎ、社会の活力を高めていけるのか。また、こうした未来がかかった巨額のファンドがいかに安全に運用され、長期に利益を生んでいけるのか。

社会が関心を持ち、見つめていくことが大切だ。

(出典)

サイエンスポータル「新たなカテゴリー」で世界トップに挑む 大学ファンドシンポで激論 2023.01.19
https://scienceportal.jst.go.jp/explore/reports/20230119_e01/index.html



(左) 山崎氏 (右) 橋本氏



大学関係者らが多数詰めかけ、関心の高さがうかがえた

1. 多様な研究大学群の形成に向けて

2. 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定

3. 総合振興パッケージの拡充に向けた取組

- ①地域中核・特色ある研究大学の振興
- ②大学(領域)を超えた連携の拡大・促進
- ③魅力ある拠点形成等による大学の特色化

(参考) 関連施策の状況について

- ①研究大学強化促進事業の事後評価
- ②創発的研究支援事業における研究環境改善支援
- ③令和4年度における主な事業の採択状況

地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定

- 日本全体の研究力を向上させるためには、大学ファンドによる限られたトップレベルの研究大学への支援と同時に、地域の中核となる大学や特定分野に強みを持つ大学など、**実力と意欲を持つ多様な大学の機能を強化**していくことが重要。
- こうした背景の下、実力と意欲を持つ大学が、**自身の強みや特色を最大限発揮し、成長の駆動力となってグローバル課題の解決や社会変革を牽引**することを目指し、政府全体の支援策を「**地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ**」としてとりまとめ、**令和4年2月の総合科学技術・イノベーション会議にて決定**。
- **関係府省が連携し、当該パッケージに基づいた支援を着実に推進**するとともに、大学ファンドの検討状況等を踏まえ、日本全体の研究力発展を牽引する研究大学群の形成に向けて、**大学ファンド支援対象大学と地域中核・特色ある研究大学とが相乗的・相補的な連携を行い、共に発展するスキームの構築**に資するパッケージ内容へと、**さらに発展・進化させていくため、令和5年2月8日の総合科学技術・イノベーション会議にて、改定**。

量的拡大

- ◆ 令和4年度第2次補正予算額
2,110億円 + 1,048億円の内数
この他、関連予算として**418億円**

- ◆ 令和5年度政府予算案
442億円
この他、関連予算として**720億円**

（令和4年度予算額
462億円
この他、関連予算として**557億円**）

※関連予算とは、大学が参画することも可能な事業の予算であり、その規模については、内数のものも総額を計上

質的拡充

- ◆ 総合振興パッケージで**目指す大学像を明確化**するとともに、「今後に向けて」を踏まえて「**大学自身の取組の強化**」に向けた**具体策を充実**

総合振興パッケージ（令和4年2月決定）
～今後に向けて～（抄）

- 本パッケージについては、文部科学省※で検討の緒に就いた、**大学の強みや特色を伸ばす取組強化の具体化・実質化等に向けた議論の動向**も踏まえつつ、今後、改定を行っていく予定（※ 科学技術・学術審議会大学研究力強化委員会）。

- ◆ 研究者が研究に専念できる時間確保に向けた**専門職人材の量・質の確保**や、研究DXや設備・機器等の**研究インフラ管理・利活用**など、**大学の研究マネジメントに着目した政策との連動**

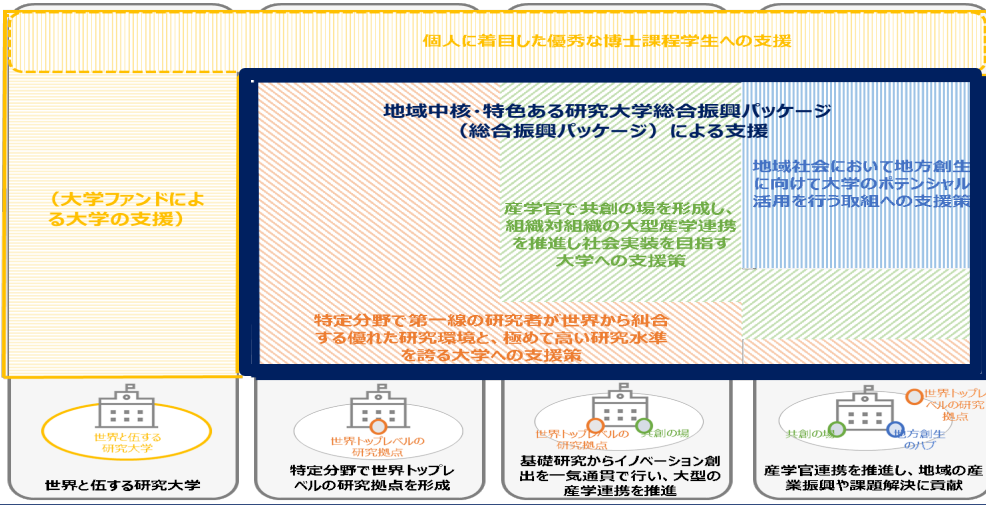
- ◆ 総合振興パッケージに含まれる**各府省の事業間の連携強化**や、「**関連事業マップ**」の更なる**充実**（「**ヘルスケア・健康づくり**」領域を追加）

地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ

令和5年2月8日改定 総合科学技術・イノベーション会議

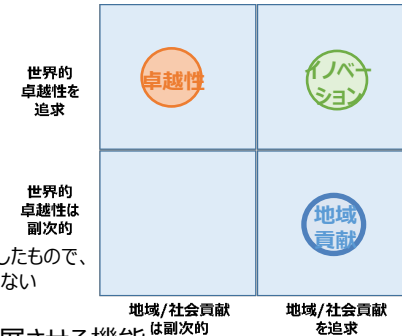
□ 目指す大学像

研究活動を核とした大学に求められる機能について、自らのミッションや特色に応じたポートフォリオを描きつつ戦略的に強化し、大学の力を向上させることで、新たな価値創造の源泉となる「知」と「人材」を創出、輩出し続ける大学



□ 大学に求められる機能

保持・強化することが期待される、研究活動に係る機能と、それに連動した高度人材育成に係る機能とを、「卓越性」と「地域・社会貢献」の観点から、3つの要素に分解



※象限毎に機能を分類したもので、それぞれの象限に優劣はない

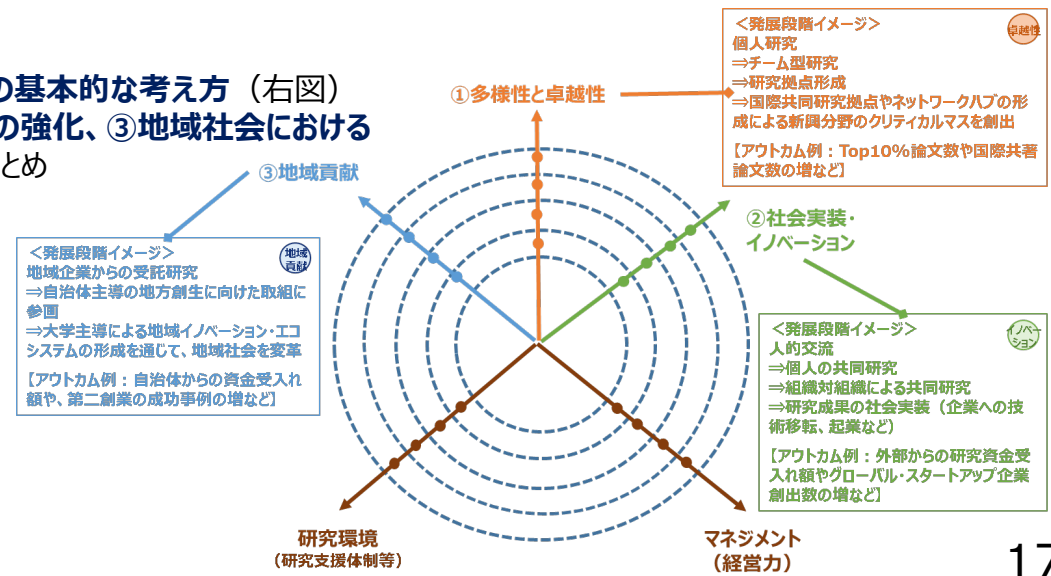
- 卓越性**
 - 【研究】学術研究の多様性と卓越性を発展させる機能
 - 【人材】多様な専攻の博士課程を通じて、将来アカデミアを含めて社会で広く活躍し次代を切り拓く人材を養成する機能
- イノベーション**
 - 【研究】地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能
 - 【人材】イノベーション創出を担う人材を養成する機能
- 地域貢献**
 - 【研究】地域産業の生産性向上や雇用創出を牽引し、自治体、産業界、金融業界等との協働を通じ、地域課題解決をリードする機能
 - 【人材】地域の中核となる知の拠点として、地域ニーズに対応した人材養成機能

□ 総合振興パッケージの狙い (目的)

求められる『機能』の観点から大学自身の立ち位置を振り返る「羅針盤」の基本的な考え方 (右図)を示しつつ、各府省の事業等を①大学自身の取組の強化、②繋ぐ仕組みの強化、③地域社会における大学の活躍の促進の3段階に整理して、1つの政策パッケージとしてとりまとめ

大学による、自らのミッションに応じたポートフォリオ戦略に基づく、**選択的かつ、発展段階に応じた機能強化を加速**

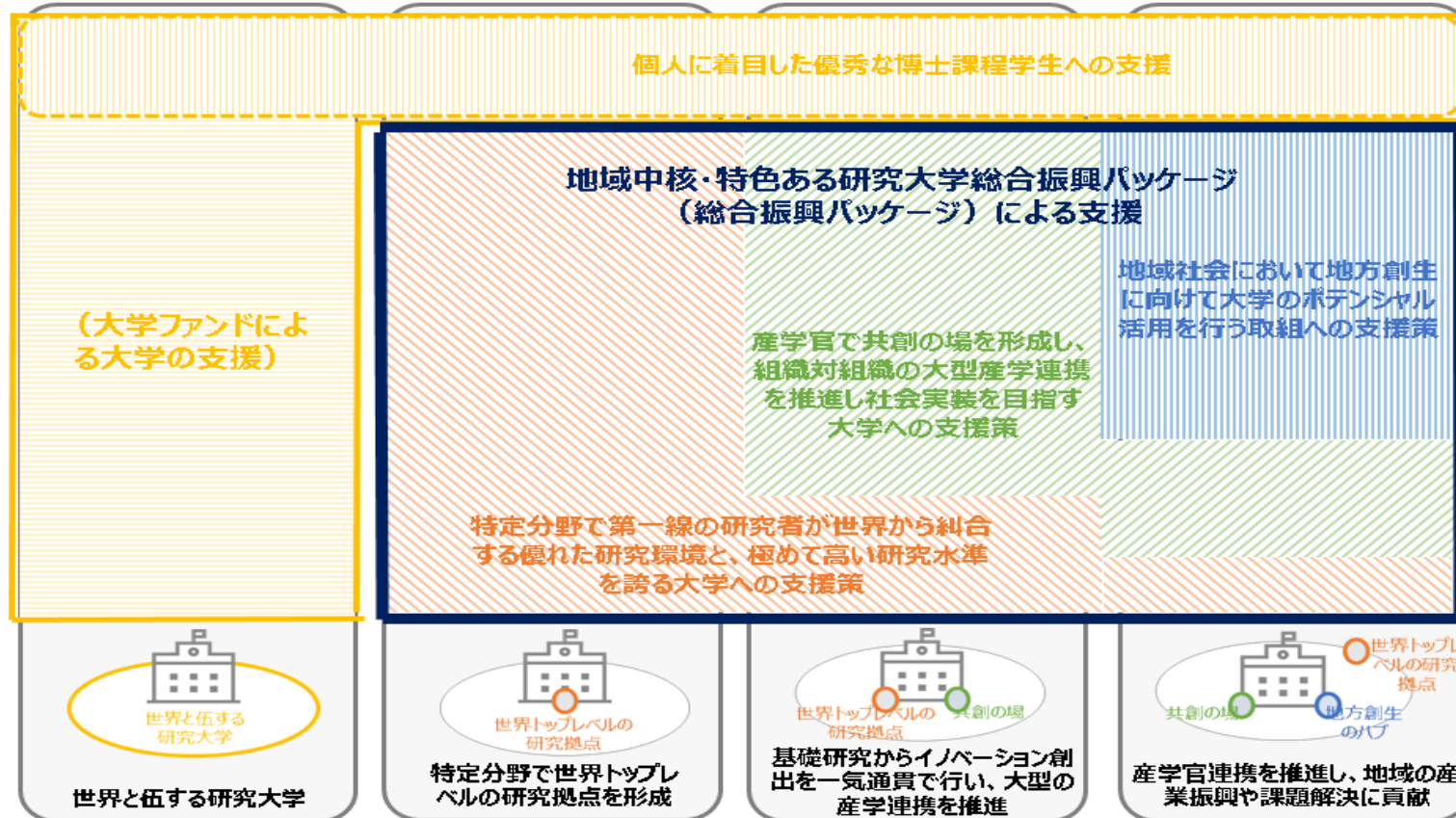
地域の中核大学等が**地域社会の変革のみならず、我が国の産業競争力強化やグローバル課題の解決**に大きく貢献



総合振興パッケージで目指す大学像（総論）

□ 総合振興パッケージの位置づけと目指す大学像

- 研究活動を核とした大学に求められる機能について、自らのミッションや特色に応じたポートフォリオを描きつつ戦略的に強化し、大学の力を向上させることで、新たな価値創造の源泉となる「知」と「人材」を創出、輩出し続ける大学



（参考）研究大学とは？

高等教育機関のうち特に、（複数の分野において）多様な社会で活躍できる博士人材を輩出する機能を持ち大学院教育における研究活動を重視しており、研究基盤を維持し、多くの研究者や博士課程学生が在籍している大学

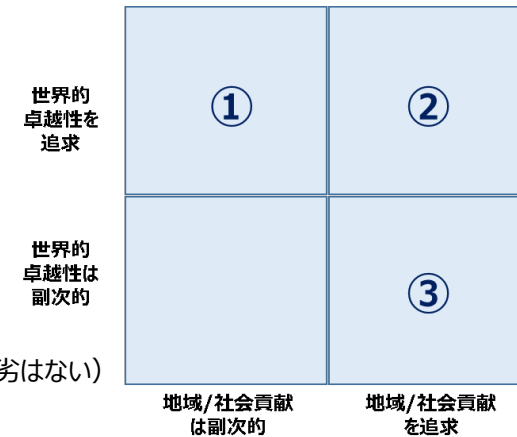
（参考）カーネギー大学分類：米国カーネギー教育振興財団が出資し設立した、民間の高等教育政策審議機関であるカーネギー高等教育審議会が、高等教育の現状分析と課題析出に資するために作成したものが始まりであり、学位授与数や専攻の多様性等により、Doctoral Universities, Master's Colleges and Universities, Baccalaureate Colleges, Associate's Colleges, Special Focus Institutions 等に大別

総合振興パッケージで目指す大学像（各論：研究活動と高度人材育成）

総合振興パッケージで目指す大学が**保持・強化することが期待される、研究活動に係る機能と、それに連動した高度人材育成に係る機能**とを、**ストークスの4象限***を参考にして、『**卓越性**』と『**地域/社会貢献**』の観点から、3つの要素に分解して、それぞれの機能強化により目指す方向性を整理
 （分類は便宜的なものであり、それぞれの機能は、独立ではなく連動することで総合知として発揮されることに留意）

※Donald E. Stokes, *Pasteur's Quadrant – Basic Science and Technological Innovation*, Brookings Institution Press, 1997

（象限毎に機能を分類したものであり、それぞれの象限に優劣はない）

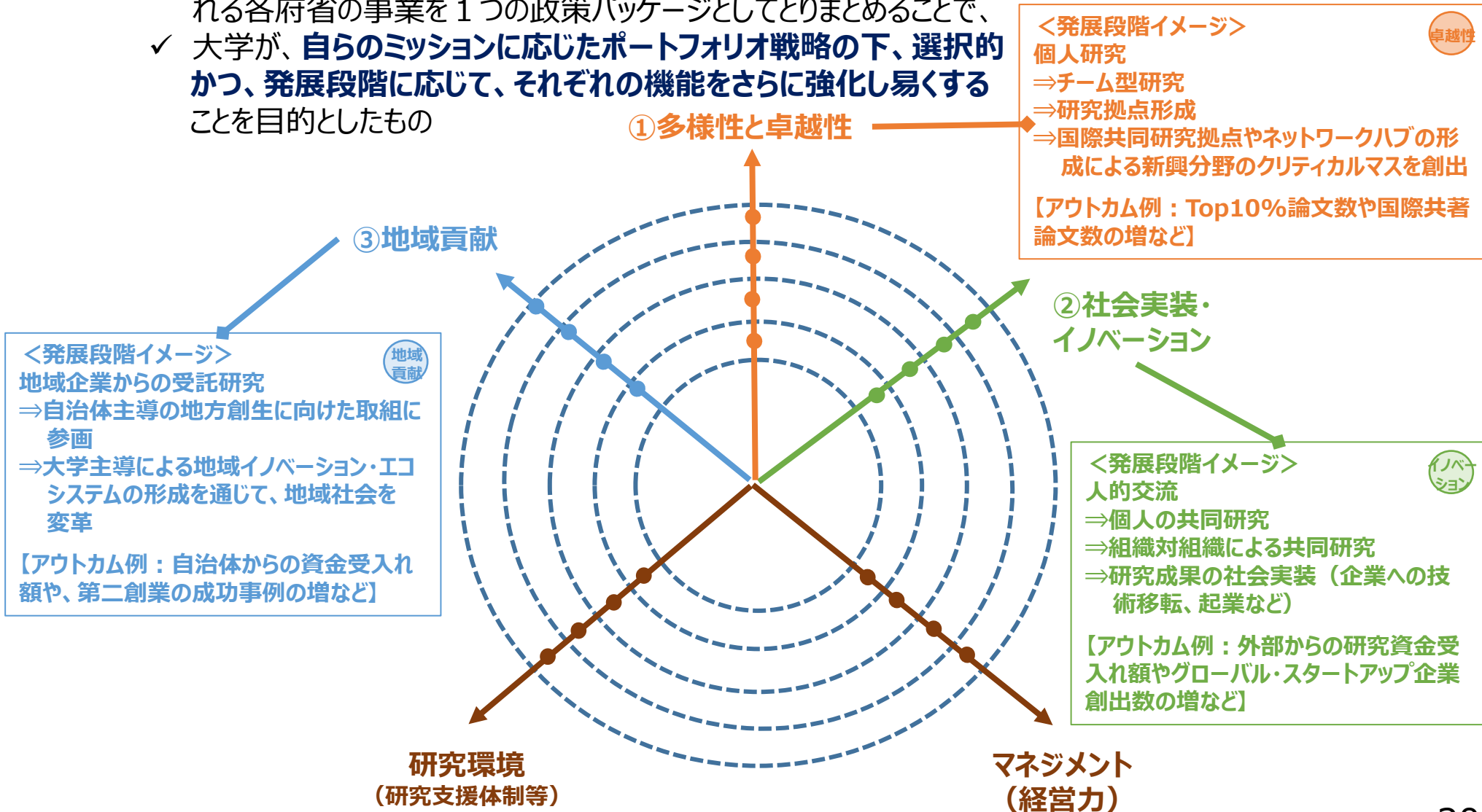


- ① **【研究】学術研究の多様性と卓越性を発展させる機能**
 ……継承・発展すべき学術領域の多様性を維持しつつ、強みを持つ特定領域の卓越性を極め、同領域における国際的なプレゼンス向上を目指す
- ① **【人材】多様な専攻の博士課程を通じて、将来アカデミアを含めて社会で広く活躍し次代を切り拓く人材を養成する機能**
 ……深い専門性を涵養し、独立した研究者として自らの意思で研究を遂行し、ブレークスルーをもたらすことができる人材の輩出を目指す
- ② **【研究】地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能**
 ……強みを持つ分野における産業界との大型共同研究や、グローバル・スタートアップ企業創出等により、大学の知の価値の最大化を目指す
- ② **【人材】イノベーション創出を担う人材を養成する機能**
 ……技術シーズを社会的インパクトのあるビジネスに繋ぐ人材や、自ら枠を超えて行動を起こし、革新的なアイデアや独自性で新たな価値を生み出していく人材など、イノベーション創出に不可欠な人材の育成を目指す
- ③ **【研究】地域産業の生産性向上や雇用創出を牽引し、自治体、産業界、金融業界等との協働を通じ、地域課題解決をリードする機能**
 ……地域企業の事業再生や地域の新産業創出など、地方創生に向けて地域社会が抱える課題解決を目指す
- ③ **【人材】地域の中核となる知の拠点として、地域ニーズに対応した人材を養成する機能**
 ……地域の成長産業の担い手の輩出や、地域ニーズに対応したリカレント教育、社会人のリスキリングを通じた専門人材の育成を目指す

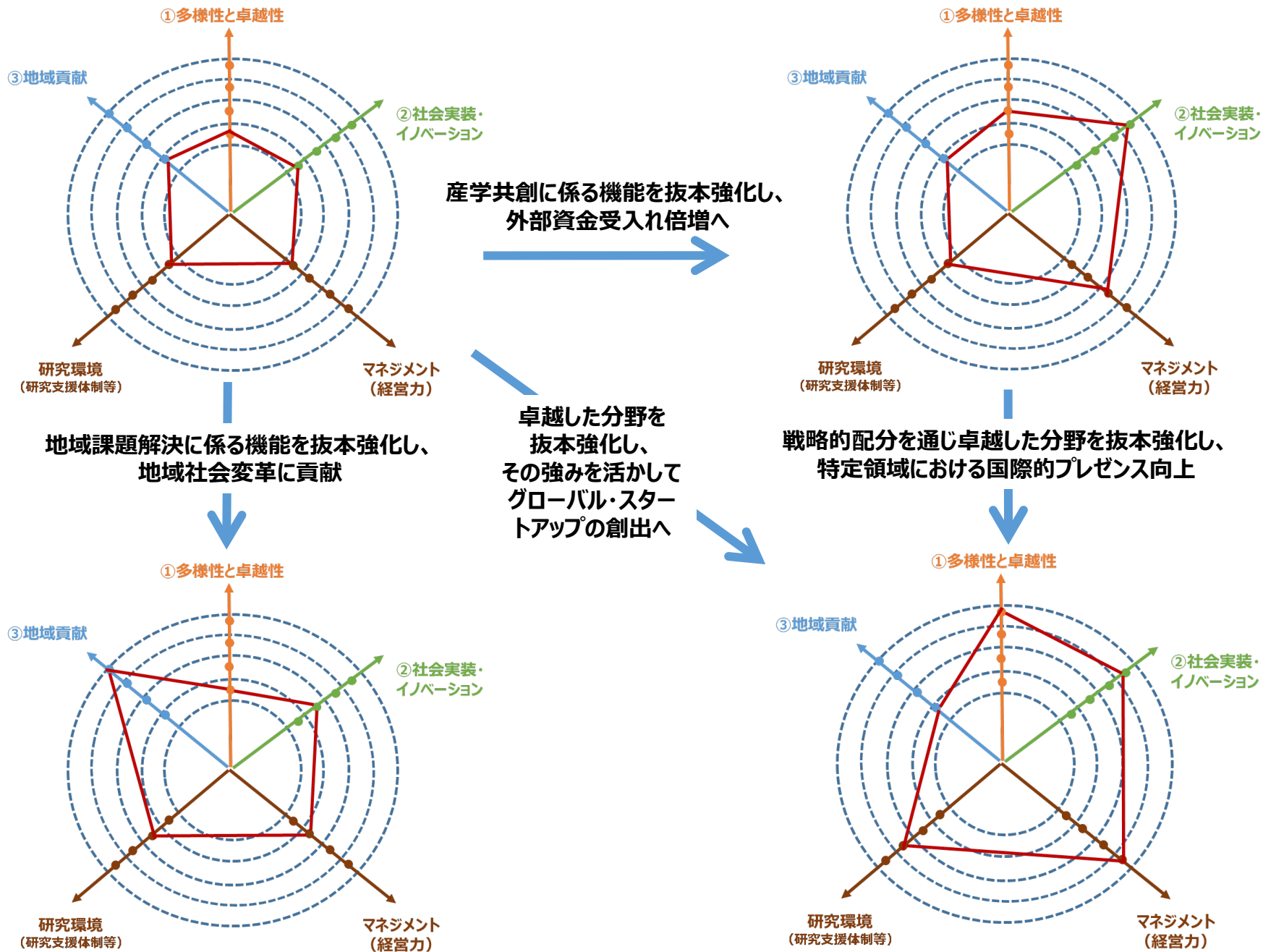
総合振興パッケージの目的

□ 総合振興パッケージは、

- ✓ 研究活動を核として大学の力を向上させる際に求められる『機能』の観点から、**目指す大学像に向けて大学自身の立ち位置を振り返る「羅針盤」の基本的な考え方**を示しつつ、重層的に展開される各府省の事業を1つの政策パッケージとしてとりまとめることで、
- ✓ 大学が、**自らのミッションに応じたポートフォリオ戦略の下、選択的かつ、発展段階に応じて、それぞれの機能をさらに強化し易く**することを目的としたもの



羅針盤を活用した戦略的な機能強化の例（イメージ）



地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ (総合振興パッケージ)

令和5年度政府予算案 442億円
 令和4年度第2次補正予算額 2,110億円+1,048億円の内数
 令和4年度予算額 462億円
 (この他、関連予算※として、令和5年度政府予算案 720億円(令和4年度予算額 557億円))
 ※大学が参画することも可能な事業(予算額については、内数の予算も含めて集計)

- 地域の中核大学や特定分野の強みを持つ大学が、“特色ある強み”を十分に発揮し、社会変革を牽引する取組を強力に支援
- 実力と意欲を持つ大学の個々の力を強化するのみならず、先進的な地域間の連携促進や、社会実装を加速する制度改革などと併せて、政府が総力を挙げてサポート
- 地域社会の変革のみならず、我が国の産業競争力強化やグローバル課題の解決にも大きく貢献

※青字が予算事業による取組

①大学自身の取組の強化(442億円)

卓越性

イノベーション

- 研究の多様性・卓越性の発展機能の強化に向けて、特色化を目指した魅力ある拠点形成を支援
- 基盤的経費や競争的研究費による、大学の強みや特色を伸ばす事業間の連携や大学改革と連動した研究環境改善を推進
- イノベーション創出に資する機能の強化に向けて、産学官連携を通じた社会課題解決(産学官連携活動や、スタートアップ創出)を支援
- 研究をしやすい環境構築に向けた改善や、大学のマネジメント体制の改革を通じた、「研究に専念する時間」の確保に向けた政策との連動
- 強みや特色ある研究力を核とした経営戦略の下、URAや技術職員等専門職人材の配置や活動の支援等による研究環境の高度化等を通じた国際競争力強化や、経営リソースの拡張・戦略的活用を図り、**研究活動を通じて大学の力を抜本的に強化**

②繋ぐ仕組みの強化

イノベーション

地域貢献

- 地域の産学官ネットワークの連携強化
 - 地域内に作られている産学官ネットワークを整理し、活用を促進
 - 地域内・地域横断の組織を繋ぐキーパーソン同士の繋がりを広げ、地域のニーズ発見や課題共有を促進
- スマートシティ、スタートアップ・エコシステム拠点都市、地域バイオコミュニティなどの座組活用によるデジタル田園都市国家構想の実現への貢献
- 大学の知の活用による新産業・雇用創出や地域課題解決に向け、大学と地域社会を繋ぐ(社会実装を担う)観点でロールモデルとなるような繋ぐ人材・組織の表彰・発信

③地域社会における大学の活躍の促進(720億円)

地域貢献

- 各府省が連携し、大学の知を活用してイノベーションによる新産業・雇用創出や、地域課題解決を先導する取組を一体的に支援(**地域課題解決をリードする機能の強化**)
 - イノベーションの重要政策課題や地域課題ごとに事業マップを整理して、社会変革までの道のりを可視化
 - ポテンシャルの高い取組について、情報共有を図りつつ伴走支援
- **地域課題解決をリードする機能の強化**に向けて、大学と自治体との連携強化
 - 地域等(自治体・社会実装を担う官庁)からの資金を受け入れ、地域貢献を行う大学に対してインセンティブを付与
 - 大学が持つ様々なポテンシャルに対する理解を促進し、自治体を巻き込む仕掛け
- 大学への特例措置や特区の活用促進

地域の中核大学や特定分野の強みを持つ大学の機能を強化し、成長の駆動力へと転換
 日本の産業力強化やグローバル課題解決にも貢献するような大学の実現へ

(参考) 総合振興パッケージによる支援全体像

- 大学が、自身の強みや特色を伸ばす戦略的経営を展開することで、ポテンシャルを抜本的に強化（**大学が変わる**）
- 大学が拡張されたポテンシャルを社会との協働により最大限発揮し、主体的に社会貢献に取り組むことで、社会を変革（**社会が変わる**）

① 大学自身の取組の強化

「大学自身の取組の強化」の主な具体策

- **魅力ある拠点形成による大学の特色化**
 - ✓ 強みや特色ある研究力を核とした経営戦略の下、研究活動の国際展開や社会実装の加速等を実現できる環境整備を支援する、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」を基金により創設
- **大学の研究環境（基盤）やマネジメントの強化**
 - ✓ 「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン」の提示により、研究基盤を全学的な研究マネジメントの一環として位置づけ、戦略的な運営を促進
- **組織間連携・分野融合による研究力の底上げ**
 - ✓ 国際卓越研究大学や大学共同利用機関等がハブとなり、人材の流動性向上や共同研究の促進、リソースの共有等を図り、我が国全体の研究力向上を牽引する研究システムを構築

地域・社会・ステークホルダー

～地域の社会経済の発展に留まらず、グローバル課題の解決や国内の構造改革・社会変革を牽引～

先端的な取組に
ドライブをかける
支援の仕組み

社会との協働・対話を通じ、
知の価値に対する投資を呼び込み

人文・社会科学も含めたあらゆる
知を総合的に活用（総合知）

自治体との連携強化
府省間の事業連携による
一体的支援

制度改革(特区活用)

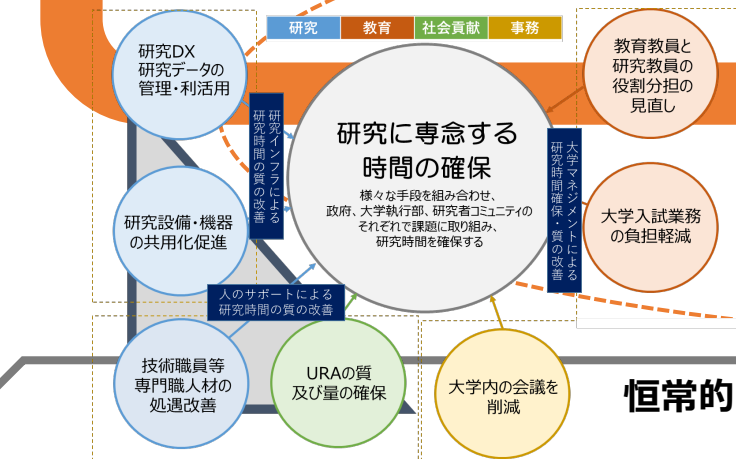
地域産学官ネットワークの
連携強化や座組活用

繋ぐ人材・組織の
表彰・発信

③ 地域社会における大学の
活躍の促進

② 繋ぐ仕組みの
強化

総合振興パッケージを通じ、大学の戦略的経営を後押しすることで、
大学現場における研究に専念できる時間を確保
(大学の研究マネジメントに着目した政策との連動)



恒常的に大学の強みや特色を伸ばすための体制づくり
(基盤的な活動を支援)

大学による
強みや特色を伸ばす戦略的経営の展開
(大学のマネジメント改革を促進)

機能強化・拡張

大学自身の取組の強化に向けた具体策①

- 個々の大学が、知的蓄積や地域の実情に応じた研究独自性を発揮し、自らの強みや特色を効果的に伸ばせるよう、**重層的な支援策をメニューとして分かりやすく可視化するとともに、予見可能性を向上**
- 大学のミッション実現に向け、基盤的経費と各種支援策とを連動させ、**大学マネジメントと連動した研究力向上改革**を推進
- **全学的な研究マネジメント体制の構築**（URA等の研究マネジメント人材や技術職員等の高度な専門職人材を含む）や**研究の独自性・競争力の向上**を通じて、**大学の戦略的な経営を強化し、新たな価値創造を推進**

今後の取組の方向性

①魅力ある拠点形成による大学の特色化（機能強化）

- 「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」を通じて、**多様性に富んだ国際的な融合研究拠点形成**を計画的・継続的に推進
- 「共創の場形成支援プログラム」を通じて、自立的・持続的な産学官共創拠点(本格型)の形成を促進していくとともに、本格型へのステップアップ(育成型)の支援を充実。**社会変革を推進していくための産学官共創拠点の形成**を支援
- 強みや特色ある研究力を核とした経営戦略の下、他大学との戦略的な連携も図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速・レベルアップを実現できる環境整備を支援する事業として、**「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」を基金により創設**

②大学の研究環境（基盤）やマネジメントの強化

- 「**研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン**」の提示により、研究設備や技術職員等専門職人材などの研究基盤を、各大学自身が全学的な研究マネジメントの一環として位置づけた上、研究力強化に向けて、戦略的な運営を促進
 - 研究動向や諸外国の状況を踏まえ、全国的な研究基盤の整備の観点から、**最先端の中規模研究設備群※を重点設備として整備**するとともに、研究設備の継続的・効果的な運用を行うための組織的な体制整備を戦略的に推進
- ※最先端中規模研究設備の例：クライオ電子顕微鏡、核磁気共鳴装置、高分解能電子顕微鏡、電子線描画装置、次世代シーケンサー等
- 「創発的研究支援事業」の採択研究者に対する環境改善の取組実績や今後の研究力強化の取組を踏まえ、所属機関(全国約100機関)を対象に、**研究時間確保など研究者目線で積極的かつ秀でた支援を行った機関に支援**

大学自身の取組の強化に向けた具体策②

- 個々の大学が、知的蓄積や地域の実情に応じた研究独自性を発揮し、自らの強みや特色を効果的に伸ばせるよう、**重層的な支援策をメニューとして分かりやすく可視化するとともに、予見可能性を向上**
- 大学のミッション実現に向け、基盤的経費と各種支援策とを連動させ、**大学マネジメントと連動した研究力向上改革**を推進
- **全学的な研究マネジメント体制の構築**（URA等の研究マネジメント人材や技術職員等の高度な専門職人材を含む）や**研究の独自性・競争力の向上**を通じて、**大学の戦略的な経営を強化し、新たな価値創造を推進**

今後の取組の方向性

②大学の研究環境（基盤）やマネジメントの強化（続）

- 国立大学法人運営費交付金(**教育研究組織改革分**)では、教育研究組織・教育研究支援組織を核とした各大学の強み・特色ある研究分野の伸張や、教育研究基盤機能の強化を含めた全学的な観点からの研究マネジメント体制の強化を奨励
- 「私立大学等改革総合支援事業」のタイプ2 (**特色ある高度な研究の展開**)において、大学等の強みや特色を伸ばす戦略的経営の展開に向け、全学的な研究力向上に係る学内計画(人材活用、URA等の確保、研究環境の改善を含む)の策定を評価項目として設定
- 地域や産業界等との共創の場となる「イノベーション・commons(共創拠点)」の実現を目指した大学等の**戦略的・計画的なキャンパス整備を推進**

③組織間連携・分野融合による研究力の底上げ（連携すること自体が目的ではなく、大学ごとに「何を強化するために、学内では何が不足していて、それをどこと連携して補うと強くなれるのか」といった明確な戦略性が不可欠であることに留意）

- 国際卓越研究大学や大学共同利用機関等がハブとなり、全国の国公私立大学等の連携を強化することにより、特に**若手人材の流動性向上**※や**共同研究の促進、リソースの共有**等を図り、我が国全体の研究力向上を牽引する研究システムを構築
- ※クロスアポイントメント制度も活用
- 強みや特色ある研究力を核とした経営戦略の下、**他大学との戦略的な連携**も図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速・レベルアップを実現できる環境整備を支援する事業として、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」を基金により創設(再掲)
 - 大学の研究力向上に貢献することを大きな使命とする**共同利用・共同研究体制**について、国際的な動向や研究DXの進展を的確に踏まえつつ、アカデミア先導型の学際研究領域の形成・開拓を推進するなど、大学の枠を超えた我が国全体の英知の結集を促進